

日本体育・スポーツ経営学会 第47回大会

「文化としてのスポーツの発展に寄与する体育・スポーツ経営学」

1. 会 期

2024（令和6）年3月16日（土）～17日（日）

*プレプログラムとして若手研究者ワークショップを3月15日（金）15時～17時に開催

2. 会場・開催形式

久留米大学 御井学舎 御井本館（福岡県久留米市御井町）

対面開催（基調講演ならびに理事会企画シンポについてはオンラインでの公開開催とする）

3. 大会テーマと主たる内容

(1) 大会テーマ：文化としてのスポーツの発展に寄与する体育・スポーツ経営学

文化としてスポーツを捉え、人々の権利として保障しようとするスポーツ推進体制は、果たしてそれを実現してきただろうか。あるいは、文化の質を高めたといえるのだろうか。折しも、人々のこれまでとこれからの生活様式を大きく変化させた新型コロナウイルス感染症拡大に際して、スポーツに関わる諸活動はいち早く「自粛」や「制限」「延期」の対象とされた。この時以来、スポーツという文化が人々の生活にとって「不要・不急」なのか否かという根本的・本質的な問いが突き付けられているように思う。「アフターコロナ」が日常化しつつある中、忘却の彼方に押しやられてしまいそうなこの「問い」を、一体どれほどの人々が意識しているだろうか。

このことは、学術的な視点から「豊かなスポーツライフの実現」を標榜してきた体育・スポーツ経営学の知見が、その実現にどれほど寄与してきたのか、そもそも「豊かなスポーツライフ」をいかに考究の対象にしてきたかを厳しく問うものでもある。「豊かさ」の実現を目指して、人々と運動・スポーツの関わりを産出する各種事業がいち早く、しかもトップダウンで停止された事実は、その「豊かさ」が人々にとって不可欠ではないか、それが実現されてこなかったか、あるいは「文化としてのスポーツの豊かさ」が未だ、市民的公共性にひらかれた議論の対象に成り得ていない現状を示唆している。さらに我が国のスポーツ振興に目を向けてみると、依然としてスポーツ実施率やメダル獲得数をはじめとした量的な指標以外に（あるいはそれ以前に）、文化の豊かさや価値を捉える「レンズ」や「ものさし」「枠組み」を持ち合わせていないことに気づかされる。同時に、「豊かさ」の内実を十分に示すことに貢献できていないことを反省的に振り返りながら、文化としてのスポーツの発展に寄与するための理論的・実践的課題を学術的に議論することが、大きな課題として立ち現れる。「文化が豊かである」とか「文化の質が高い」、「文化を創造する」、「文化が発展する」とは、一体どのような現象として捉えることができるのかを改めて問われなければならない。

そこで第47回大会では、基調講演ならびに理事会企画シンポジウムにおいて、文化の価値を捉え、その価値を評価し、実現することがどのように捉えられるのかを、他領域の専門家（文化経済学、文化政策学、体育授業論、歴史社会学）を交えて学際的に議論する機会を得たい。現代社会は感染症拡大のみならず、紛争・貧困・格差・分断等の問題を抱えながら、グローバリゼーションによって流動し続けている。その中で生じる、文化の階層化・文化的多様性に関わる課題を共有しつつ、文化の価値・権利をどのように捉え、いかに振興するかを考えながら、今後の体育・スポーツ経営の理念（実現すべき価値）と目的（進むべき方向性）を具体化する方途を探る。

(2) 基調講演

<テーマ> 文化経済学からみた「文化の価値」の特殊性—これまでの論点とこれからの課題

<講師> 阪本崇氏 (京都橘大学)

スポーツの価値を語る際、「文化の価値」や「文化的価値」という概念が用いられることは多い。だが、その特殊性についての議論は必ずしも成熟していないように思われる。たとえば「経済的価値」と「文化的価値」の間には、いかなる本質的な違いがあるのだろうか。このことを議論することは、取りも直さず「文化とは何か」に迫る一視覚になるだろう。そこで本学会大会の基調講演では文化経済学者の阪本崇氏をお招きし、一般経済学における文化経済学の位置づけ、そして「価値」の形成とその捉え方における「文化的価値」の特殊性について講演をいただく。

(3) 理事会企画シンポジウム

<テーマ> 「文化」としてのスポーツの価値・権利をどのように捉え、いかに振興するか

<コーディネーター> 朝倉 雅史 氏 (筑波大学) 他 1 名※調整中

<シンポジスト>

- ①文化政策における文化の価値とその評価 中村美亜氏 (九州大学)
- ②運動文化論と国民スポーツ文化の創造が目指すもの 森 敏生氏 (武蔵野美術大学)
- ③歴史社会学からみたスポーツの文化的発展 菊 幸一氏 (国士舘大学)

文化としてのスポーツの価値・権利をどのように捉え、いかに振興するか。本シンポジウムでは、スポーツという文化の価値を捉え、その価値を評価し、創造、発展させるということがどのように捉えられるのかを、他領域の専門家を交えて学際的に議論する機会を得たい。そこで、文化政策学をご専門として、文化事業に関する評価をテーマにご研究を進めていらっしゃる中村氏、地域スポーツや国の政策も視野にいれながら学校体育における運動文化論について議論と実践を重ねてきた森敏夫氏、歴史社会的視点からスポーツの文化的発展を論じられてきた菊幸一氏にご登壇いただき論題に迫る。

(4) 若手研究者ワークショップ「若手研究者のための共同研究のすすめ」

体育・スポーツ経営学研究の学術的生産性および社会的インパクトを向上させる方策の一つとして共同研究を推進することが考えられる。とりわけ若手研究者にとって、共同研究に取り組むことは重要な課題と思われる。本ワークショップでは、体育・スポーツ経営学分野において積極的に共同研究を進められている3つの若手研究者ペアないしはグループから、共同研究を効果的に実行するためのポイントや留意点について報告してもらう。その上で、参加者によるグループ討議をとおして「若手研究者のための共同研究のすすめ」を共同構築したい。

4. 大会日程

<プレプログラム>		
日程	時間	内容
3月15日(金)	15:00~17:00	若手研究者ワークショップ ~若手研究者のための共同研究のすすめ~
<本プログラム>		
日程	時間	内容

3月16日(土)	9:45~10:00	開会あいさつ
	10:00~11:30	基調講演
	11:30~13:00	昼休憩
	(11:40~12:40)	理事会
	13:00~15:00	一般発表(学生発表含む)
	15:00~15:10	休憩
	15:10~17:10	一般発表
	17:10~18:10	総会
	18:30~20:30	懇親会
3月17日(日)	9:00~11:00	一般発表
	11:00~11:10	休憩
	11:10~12:00	ポスター発表
	12:00~13:00	昼休憩
	13:00~13:50	一般発表
	13:50~14:00	休憩
	14:00~16:00	理事会企画シンポジウム
	16:00~16:10	閉会あいさつ

5. 大会参加手続き

(1) 参加申込み方法: WEB 参加申込み

参加申込みフォーム <https://forms.gle/A158Vi47JTSvtVZG7> からアクセスしてください。参加申し込みにあたっては、参加区分、研究発表(口頭/ポスター)、若手セミナー参加有無などをそれぞれ選択してください。オンライン公開開催(基調講演ならびに理事会企画シンポジウム)の参加方法(zoomのURLなど)については、申込者に後日連絡いたします。

(2) 参加申込み締切日

2024(令和6)年 1月31日(水)

→ 2月16日(金)延長しました

(3) 参加費



項目	会員種別	参加費	項目	参加費
大会参加費	正会員	5,000円	懇親会費	4,000円
	学生会員	2,000円		2,000円
	臨時一般会員	6,000円		4,000円
	臨時学生会員	3,000円		2,000円
抄録(PDF版)のみの購入		1,000円		

* 基調講演ならびに理事会企画シンポ(オンライン公開開催)の視聴は無料

(4) 振込先および振込締切日

<振込先>
銀行名： りそな銀行 (0010) 久留米支店 (722)
口座番号： 普通 0134584
口座名義： ニホンクイイク・スポーツ経営学会 第47回大会 行實鉄平

振込締切日： 2024 (令和6) 年 2月19日(月)

